

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 116 号	氏名	卜部 (杉山) 奏子
学位審査委員	主査	松山 俊文	
	副査	江口 勝美	
	副査	大園 恵幸	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>びまん性汎細気管支炎 (Diffuse Panbronchiolitis: DPB) でのマクロライド (ML) 少量長期投与療法の効果は広く知られているが、その作用機序の一つとして ML の免疫系への関与が考えられている。DPB の細気管支で樹状細胞 (DC) の増加が報告され病態形成にかかわっている可能性があることから、本研究では DC へ対する ML の効果を検討しようとしたものであり目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>本研究で用いた DC は常法に則ってマウス骨髄より GM-CSF、LPS を用いて作成された。14 員環、15 員環、16 員環の ML としてそれぞれクラリスロマイシン (CAM)、アジスロマイシン (AZM)、メディカマイシン (MDM) が DC の分化誘導刺激時に加えられ、その効果は DC 上の補助シグナル分子の発現、DC からのサイトカイン産生、T 細胞と共培養してのサイトカイン産生の点から検討された。これらは DC を対象とした研究手法として標準的なものと評価できる。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>本研究から、14 員環、15 員環の CAM、AZM には DC の機能に作用する活性がある一方で、16 員環の MDM にはその活性がないことが明らかにされた。これは臨床における治療効果と一致する結果であり、今後の発展が大いに期待できる。審査員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			